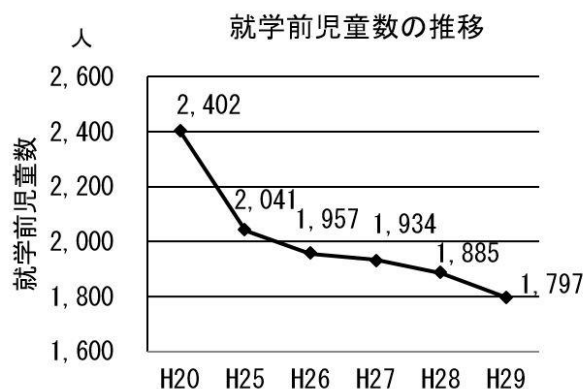


洲本市における幼児教育・保育の再編について

1. 取組の背景

少子化の進行や女性の社会進出による共働き世帯の増加に伴う保育需要の増大など、本市においても子ども・子育てを取り巻く環境は大きく変わってきています。就学前児童数が減少傾向にある中、特に市立幼稚園では入園児数が減少し、望ましい幼児教育に必要な集団活動の維持が難しくなっています。また、保育所(園)では、多様化する保育ニーズへの対応が求められています。

これらのことから、洲本市学校教育審議委員会からの施設の適正規模、適正配置についての報告並びに多様化する保育ニーズを踏まえて、より良い子育て環境を整えるために幼児教育・保育の再編に取り組む必要があります。



項目	H20	H25	H26	H27	H28	H29
就学前児童数	2,402	2,041	1,957	1,934	1,885	1,797

※各年度4月1日現在、0～5歳児の住基人口による

2. 現状と課題

市立幼稚園の園児数は、この10年間で半分に減っており、定員410人のところ114人と、3割にも満たない状況であり、1園は休園しています。園児の送迎時等の駐車場不足により、安全面において課題を抱えている園もあります。

市立保育所(園)は、施設により多少の差はあるものの保育需要が高まる中、幼稚園と比較して入所児童数は大きく減少していません。特に市街地にある保育所は、定員を上回る入所希望があります。送迎時の道路渋滞の誘発や多様化する保育ニーズへの対応、施設の老朽化など固有の課題を抱える保育所(園)もあります。

就労形態の変化により保護者のニーズは幼稚園から保育所(園)へ移行する傾向が見受けられます。

市立幼稚園児の推移

単位:人

施設名称	定員	平成20年度園児数	平成28年度園児数				平成29年度入園児数				就園率%
			3歳児	4歳児	5歳児	合計	3歳児	4歳児	5歳児	合計	
洲本幼稚園	85	56	20	9	17	46	20	12	9	41	48.2%
第一幼稚園	65	33	—	—	—	—	—	—	—	—	—
第三幼稚園	65	51	—	19	21	40	—	11	21	32	49.2%
加茂幼稚園	65	40	—	6	13	19	—	6	5	11	16.9%
大野幼稚園	130	74	—	15	23	38	—	14	16	30	23.1%
合計	410	254	20	49	74	143	20	43	51	114	27.8%

※第一幼稚園は、入園申し込み園児が5人以下のため学級編制を行っていない

※園児数は、各年度5月1日学校基本調査による

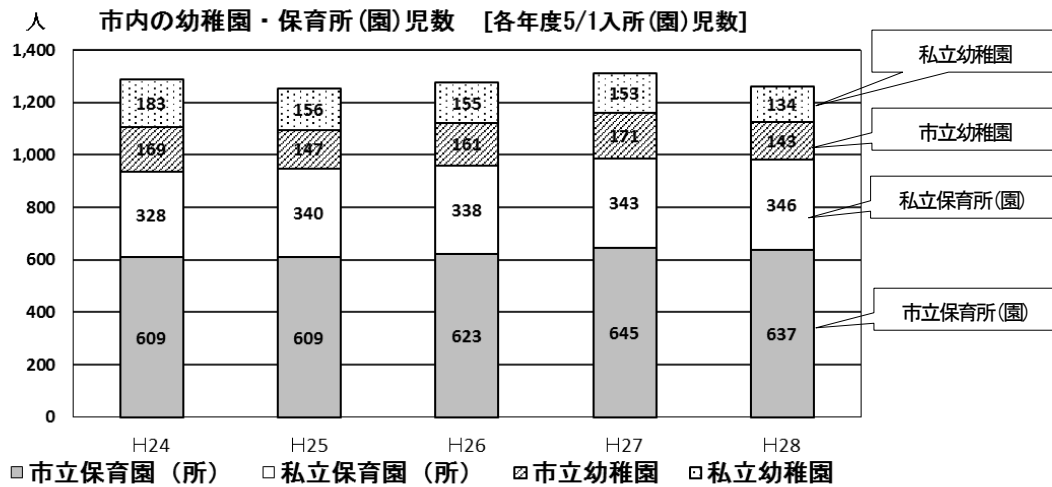
市立保育所(園)児童数の推移

単位:人

施設名称	定員	平成20年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	入所率%
市立保育所(園)	715	654	645	631	603	84.3
うち洲本保育所	100	113	117	114	118	118.0

※入所児童数は、各年度5月1日現在

私立保育所(園)・私立幼稚園は、特色ある保育サービスの充実による保護者の高い評価を背景に、一定数の児童を確保しています。また、平成29年度より2園が認定こども園に移行しています。



3. 認定こども園とは

認定こども園とは、保護者の働いている・いないに関わらず就学前の子どもを受け入れ、教育・保育を一体的に行うと共に、地域における子育て支援の機能を備える施設です。

4. 再編方針

洲本市学校教育審議委員会での審議における「同一年齢において複数の学級編制ができる規模」、「公立幼稚園は1園(情勢により段階的)」が望ましいとの報告や、定員割れしている市立幼稚園の園児数が今後、充足率を高める社会情勢にないことなどから、望ましい幼児教育が実施可能な適正規模にするため、平成31年度より市立幼稚園を2園に再編します。

また、病後児保育など新たな保育サービスの必要性に柔軟に対応し、より充実した幼児教育・保育を提供するために、認定こども園を県立病院跡地に整備し、市立洲本保育所を移転します。

この再編後の市立幼稚園及び保育所についても、就園状況により望ましい教育・保育環境が確保できなくなった場合には、改めて再編を検討していきます。

